

分科会5

アンチスティグマとリカバリー

～ピアスタッフとアンチスティグマ：

私たちは働きながら、職場をいかに変えたか、いかに変えなかったか～

発言者：飯山和弘（NPO 法人じりつ ピアスタッフ）

内布智之（医療法人常清会 アウトリーチチームプラスワン ピアスタッフ）

小川奈穂子（相談支援センターパティオ ピアスタッフ）

企画担当者：高橋清久（公益財団法人精神・神経科学振興財団）

寺尾直宏（NPO 法人千葉県精神障害者家族会連合会）

宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）

前半はピアスタッフの方から報告、後半はグループに分かれての話し合いと、そのグループで出た話題の報告と質問を行いました。

報告者：NPO 法人じりつ 飯山和弘さん

- ・利用者からスタッフになった経験～ 利用者の時には見えなかったこと
- ・専門職(他のスタッフ)との関係性～ 当事者であることとスタッフであることに対する反応
- ・福祉(精神保健福祉)という仕事の業界について思うこと～ 当事者をどのようにとらえているのか

自分は、あまり職場ではスティグマを感じてこなかったが、自分より新しく入ってくる若手の職員は、なんで、この人は当事者なのに働いているんだろうという目で見えてくるので、違和感を感じるということでした。

報告者：医療法人 常清会 アウトリーチチーム プラスワン 内布智之さん

メンタルヘルス業界はサービス業ならサービスの受け手(お客さん)が「求めるサービス」が重要であるにもかかわらず逆転現象している場面が多々みられる。サービスの送り手の「独りよがり」では限界があり、改善が望めないそこで、「元受け手」がキーになる。

職場でのピアスタッフに対するスティグマは「きつい仕事は任せられないだろう」「責任能力は低いだろう」「調子を崩されやしないか」「コミュニケーションは普通に取れないだろうか」などを感じてきた。だから最初に来る事から取り組み、少しずつ出来そうな事に挑戦し、出来た事は適切に自己評価してきた。また出来ない事は割り切って宿題にし、出切る様になりたい事を持つようにした。その中で自分として、変えなかったことは、専門職が意識したピアスタッフの視点や、リカバリー志向を支持する人の考え方や自分は元サービスの受けて側だったという意識である。

後半のグループでの話し合いでは、7～8人に分かれてもらい、各グループでピアスタッフとアンチスティグマ。メンタルヘルス業界内のスティグマについて、話し合ってもらった。多くのグループでは、「自分のことでこんな偏見や差別を受けてきた」「私は仕事場ではピアスタッフとして働いていないが、一般の職場ではあまり差別を受けてこなかった。」「スティグマという言葉の意味を知った。」などという報告が多くあった。

《宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》